

炭 竈 ふく代 議員



子どもの発症が多い脳脊髄液減少症について、教員研修を


問

脳脊髄液減少症【以下「減少症」・】について聞

く。
 (1) 減少症は、いつでも、だれでも遭遇する日常的な出来事で引き起こされる、身近な病気である。

事故がきっかけで登校できず、学校から不登校の扱いを受けた(市外の)生徒もいると聞いている。

現在の児童、生徒の把握状況を聞く。

 交通事故によるむち打ち損傷や頭部への強い外傷が原因で、脳脊髄液が漏れ続ける症状。頭痛、めまい、倦怠感などを引き起こし、治療法は確立していない。

(2) 減少症は認知度が低く、全国的にも診断、治療を行う医療機関が少ないため、患者や家族は大変な苦勞を強いられている。


子どもの発症が多いと言


われるこの病気に対し、先生の認識が大事だが、市も先生や関係者への研修を行うってほしいがどうか。

(3) 減少症を知らない潜在患者は100万人以上いると言われている。

県は減少症に関するホームページを作り、診療可能な病院や患者団体などの情報提供を実施している。

市もホームページや広報での情報掲載や相談窓口などの体制も考えてほしいがどうか。

(4) 治療法のブラッドパッチ療法【】は、保険適用が認められておらず、全額が患者負担となつているが、市長の見解を尋ねる。

 髄液が漏れる部分に自分の血液を注入し、のりの役割を果たすことで修復する治療で、効果は個人差があると言われている。

理解を深めるよう指導したい

答 教育課長

(1) 現在、減少症と診断された児童、生徒はいない。

(2) 過去に養護教諭の研修に取り上げられたと聞いているが、病名自体も先生、保護者等にあまり認知されていないのが現状である。

今後は、先生に減少症の認識や理解を深める機会を設けるよう、学校に指導していききたい。

答 健康推進課長

(3) 19年に国の研究が始まったところである。広報等の掲載

は研究がもう少し進んでからと考えている。

相談窓口は近隣市町村がまだ置いておらず、その動向を見ながら今後の課題とさせてほしい。

答 市長

(4) ブラッドパッチ療法は海南病院長に聞いたところ、診察は保険が適用されるが、診察後に(他の)病院を紹介することで対応しており、治療費は約十数万円掛かるとのこと、拠点病院で治療を集約し、しっかりと研究していこうということである。

情報提供は(治療法が確立されておらず)、しっかりとした情報でないと市民に迷惑をかける。情報を得て、ホームページ等で掲載する方向で取り組みたい。

